

鬼 だ	北上市立	館 より
	の	
第26号		



なまはげ門掛け出陣式の様子



わんぱく講座、鬼剣舞発表

鬼剣舞～各世代へ受け継がれて（福豆鬼節分会）

今年も福豆鬼節分会（北上市教育委員会、岩崎地区自治振興協議会、岩崎地区交流センター主催）が2月4日（日）に行われました。地元青年団の協力も得ながらの開催となり大勢のお客さんと賑わいました。今年は暖冬で積雪が少なかったため、会場には雪像の代わりに大きなパネルが掲げられました。北上市の市民憲章をモチーフとしたもので、私たちの住む里を天から見守る鬼たちを描いたものでした。ステージでは、保育園児による鬼剣舞に始まり、小学生、北上翔南高校、岩崎女子鬼剣舞、最後に岩崎鬼剣舞と、各世代に受け継がれた舞がそれぞれ披露されました。半ば雪が降り、踊り手のみなさんはさぞ寒かったことと思いますが雪の中の鬼剣舞もまた幻想的で、たっぷりご鑑賞いただけたのではないのでしょうか。

福豆スナック



▲^え節分会開会に先立ち、まずは城内太鼓保存会のみなさんによる景気よい響きで大地にはびこる邪気が祓い清められました。



◀雷神コンテストでは「漫画家になりたい〜!」「〇〇ちゃん大好き〜!」「バカヤロー!」などなどこどもたちの元気な声^えが会場を沸かせました。



▼「福わぁ〜うち!」「鬼もお〜うち!」の合言葉のもと行われた福豆まきでは、たった一つ、金の福豆を拾った小学生の男の子にラジコンのオートバイが贈られました。また^え節分会の締めくくりには皆様の開運を祈念して約1000個の福もちがまかれました。

▲鬼の館特製激辛スープ「鬼汁」の早飲み競争。辛いのが好きというお客さんが多かったせいかみなさん飲み干していました。かなりの辛さのはずですが…。



▲ゲーム「爆裂玉手箱」風船を割って大当たりを当てましょう! くまのプーさんのおおきなぬいぐるみをめぐってこどもたちが雪の中を駆け回りました。



◀七折生活改善グループの協力で豚汁や甘酒などがふるまわれた他、食文化の味覚を探ろうと、ぶっかけ餅やスイートポテト餅などの試食も行われました。

18年度下半期の特別展示レポート

収蔵資料展「世界の鬼面」～国々の信仰と仮面文化～

3月4日(日)～4月15日(日)

ただいま開催中!



パロン・ケケット (インドネシア)



ワニ面 (フィリピン)

開館以来収集してきた資料の中から日本を含む世界各国の独特な仮面を展示しております。仮面は、民族の習慣や習俗、さらに国ごとの宗教や信仰によって、その形態は様々です。国を超え各民族の根底にある共通した精神信仰を探求してみませんか？

「江戸時代からの贈り物」

～大津絵にみる今昔～

10月29日(日)～12月10日(日)



鬼の念仏(達都絵) 河口邦山 画

東海道五十三次、最後の宿場、大津宿。ここから京都に向かう街道筋で旅人相手にお土産品として販売されていたユーモアたっぷりの民衆絵画が大津絵です。今回の展示では版画絵・屏風絵・襖絵などと合せてその大津絵を現代にまで引き継ぎ模倣し脚色し、独自に描いている絵師、河口邦夫氏の番傘や色紙絵等の作品も合わせて公開しました。

「匠の伝承」～創意・創造・創作～

12月16日(土)～平成19年2月25日(日)



北上市には生活に密着して時の経過とともに創意工夫され、継承される伝統的工芸品を作り続けている匠が居ます。首が動くのが特徴である南部系(佐々木家)のこけしの匠、佐々木寛平さん、剣舞人形や伝統人形他、北上市の土産品、グッズも手がけている匠、那須清一さんの作品の他、匠の創作風景を映した写真やプロフィール、こけしの製作過程や電動ロクロ等も合せて紹介されました。

また、江釣子創作クラブのみなさんによるわらじやミノ等かつて生活の必需品であったワラ細工も展示されました。

平成18年度収蔵資料

●寄贈資料

- 獅子頭 (北上市更木 千田千代子 様
仲介者 高橋 譲 様)
- シーサー〔陶製品〕
(北上市和賀町 平賀昭土 様)
- 仙桃(中国製)〔一式、給子1、茶碗1〕
(北上市和賀町 馬峰ツヨミ 様)
- 装飾魔除札(大宰府天満宮)
- 小型絵馬札
〃
(北上市北鬼柳 瀬川 誠 様)

●購入資料

- 仏画(掛軸)
増長天立像画
- 錦絵
雷神の図(大判三枚組)
- 陶器
鬼の念佛文馬の目皿
- 磁器
鬼の念佛文青磁皿
- 節句人形
富樫・義経・弁慶の各ひな人形

わんぱく講座

毎年、市内の小学生を対象に開講している鬼っこわんぱく講座ですが、今年は、陶芸体験、はりこ体験、そして鬼剣舞体験を通じてしっかりと鬼の心を学びました。最後の福豆鬼節分会でのステージ発表では凛々しい表情で見事な踊りを披露してくれました。ではここで講座の最年長としてみんなを引っ張ってくれた菊地郁哉くんのお礼の言葉を紹介します。

「お礼の言葉」

北上市立南小学校5年 菊地 郁哉

今日まで私達は、鬼っこわんぱく講座でたくさんの体験をさせていただきました。

陶芸体験の鬼面づくりでは、なかなかうまくいきませんでした。きれいにしあげることができました。はじめてかま元の見学もしました。張り子体験では、ステージ発表の際に使用する鬼面を作りました。先生のご指導のおかげで楽しく作ることができました。鬼剣舞体験では、岩崎鬼剣舞のみなさんに指導していただき、短い期間で、うまく踊ることができるようになりました。赤平先生や岩崎鬼剣舞のみなさま、鬼のやかたの職員のみなさま、およびご父兄のみなさまのおかげで無事、鬼っこわんぱく講座を終えることができました。本当にありがとうございました。



鬼ッス・プレイミュージアム



鬼ッス・プレイミュージアムは張り子のお面づくりを中心に活動しています。お面は来館時に創作体験できる他、こちらから道具を持って最寄の施設へお訪ねする出前講座を通じても作ることができます。また、お面づくりの他、夏休み冬休みには市内の小学生を対象としたワークショップを開催します。今年の冬休みにはしめ飾り作り、版画を体験した他、口内町の瀬戸忍先生をお迎えして親子で切り絵に挑戦しました。瀬戸先生は切り絵の指導と同時にカッターの使い方も丁寧に教えていましたが、刃物は切れる恐ろしい凶器であることを子供たちに指導する姿が印象的でした。

…… 出前講座募集 ……

鬼についての知識を深めたい！また、鬼のお面を気軽につくってみたい！でも鬼の館へはなかなか行けない、団体で行いたい、という場合などに、こちらから出向きます！北上市の出前講座の中に、鬼についての様々なお話がきける「鬼学講座」と、張り子で鬼やカップのお面をつくる「和紙面づくり講座」が組み込まれていますので要望があれば北上市内どこへでも伺います。近年、ふれあいデイサービスや老人クラブ、子供会行事等でご利用いただいております。料金は「鬼学講座」が無料。お面づくりには、材料費として、300円～550円がかかります。詳細については当館へご相談ください。出前講座のお申し込みは



北上市教育委員会事務局生涯学習文化課（61-3231）でお待ちしております。

瀬川副館長退任によせて

鬼の館勤務を振り返って

副館長 瀬川 誠



私は、平成15年4月に当鬼の館へ異動になり、4年が経過しました。この3月で定年退職となりますが、鬼の館での4年間は、長いようでもあり、短いようでもあります。振り返ってみますと、まず、一番印象に残ったのは平成16年の鬼の館開館10周年記念事業です。妖怪漫画で有名な水木しげる氏の代表作「ゲゲゲの鬼太郎」の原画・映像、創作絵本、さらに妖怪コレクション等様々な資料を展示した企画展や世界妖精妖怪会議などです。また、岩手郷土芸能祭も開催され、早池峰岳神楽や朴ノ木沢念仏剣舞など普段鑑賞できない芸能が披露され、大勢のお客様に喜んでいただいたことは、たいへんよかったです。

また、この年の10月には広島県神辺町（現在は福山市）で開催された第10回全国鬼サミットに出席しました。このサミットは、鬼にまつわる伝説

や物語を基に、まちおこしに取り組む全国の団体が持ち回りで開催してきたものです。神辺町商工会青年部が中心となり開催したもので、これまでどちらかというと行政主導で開催されてきましたが、神辺町でのサミットは、まちおこしに取り組む主体の移り変わり「官から民へ」を印象付けたサミットでした。ちなみに、北上市は平成7年（鬼の館開館2年目）に開催しています。

当鬼の館で毎年開催している福豆鬼節分会を盛り上げるためにも、民間のアイデア、活力が不可欠であり、官民一体のまちおこしの必要性を痛感しました。このサミットには、鬼剣舞を踊れない私が、事前に着付けのわか講習を受け、鬼剣舞の装束姿に、鬼面づくり講習会で創作した鬼剣舞面（白面）を付けて出席しました。京都の酒吞童子や秋田のなまはげなど全国の鬼たちに会え、交流できたことは大変意義がありました。ただ、その後、財政事情等から次回開催地がいまだに決まっていないことは、寂しい限りです。

おわりに、鬼の館の事業にご協力いただいた岩崎地区の皆さんや鬼剣舞・神楽等の関係者に感謝申し上げます。ありがとうございました。

平成19年度の行事予定

◆特別展・開放事業①

「眠りから醒めた文物展」
4月28日(土)～7月8日(日)

◆企画展21

「いわての権現様」
7月21日(土)～9月23日(日)

◆特別展

「魔人・悪魔とされる鬼神たち」
10月6日(土)～12月2日(日)

◆特別展・開放事業②

「匠の伝承展」
12月15日(土)～平成20年2月17日(日)

◆特別展

「収蔵資料展」
2月24日(日)～4月13日(日)

◇巡回移動展

「鬼のお散歩」(予定)

◇鬼の館芸能公演

4月～10月までの第4日曜日、5月4日(金)、
8月14日(火) 午後1時30分より
鬼の館野外ステージにて開催
鑑賞無料

◇鬼っこわんぱく講座

市内小学生を対象とした講座。
鬼っこ合宿や鬼剣舞体験を通じて体験的に鬼の心を学びます。

◇鬼学講座

鬼に関する豊かな知識と教養を培う成人向けの講座です。

鬼学講座移動研修に参加して

専任研究員 貝塚 亜佐子

恒例の鬼学講座が8月から11月までの全5回にわたり行われ、約40人が熱心に受講しました。この鬼学講座は、鬼の実態を探り、人と鬼との関係を理解しようと毎年開かれている成人向けの講座で、今年は「鬼の源流を求めて パートX」～民俗芸能に生きる鬼たち～と題して、芸能と鬼との関わりを追求してきました。その締めくくりの移動研修では、秋田県横手市へ保呂羽山の霜月神楽を鑑賞に行ってきました。霜月神楽は、波宇志別神社に伝わる神事で、1200年以上もの歴史をもっているといわれています。私は移動研修に参加するのは初めてでしたが14人の鬼学受講生の方々と共に和気あいあいとした雰囲気の中で研修させていただきました。当日は朝から雨降り、夜通し続く神楽のため寒さが心配されましたが防寒対策をして出かけました。横手ICを降りて各自昼食をとった後、最初の研修場所である波宇志別神社本宮へ向かいました。

波宇志別神社本宮は標高438メートルの保呂羽山のほぼ山頂にあります。途中まではバスで進むことができますが、道が細くなるとそこからは歩いて山頂をめざします。天気の良いればハイキング気分で登るところですが、何せ雨雑じりの風がゴォーと鳴っている中でしたので、本当に登るのだろうかとやや不安げに暫しバスで待機していました。車内ではその風音を聞き、「山の神が怒ってるよ」「山の神は女だから怒ってるのよ」など、さすが鬼学生らしい会話に感心しました。なるほど、山の神はやきもちやきで怖い神様、この日はきつとご機嫌斜めだったのでしょう。さて、まるで仙人でも現れそうな霧のかかった参道を登っていくと、「下居堂」にさしかかります。ここは俗にいう「女人堂」でかつてこの山は女人禁制の山だったので、ここまでしか女性は入れず、この「下居堂」でお参りをしたのだそうです。また、さらに行くと、子守りに夢中で誤って女人禁制の神域まで入ってきてしまったため石にされた「子守り石」というものも残っています。そこから山頂までは一層険しい登り道でした。雨でぬかるみ、足場の悪くなった道を所々ロープをつた



波宇志別神社神楽殿にて

いながら漸く本宮へたどり着きました。この波宇志別神社本宮は湯沢市の御嶽山（塩湯彦神社）、大仙市の神宮寺岳（副川神社）と共に延喜式神名帳にも記載されている程の由緒ある古社で、江戸時代に入ると佐竹氏の庇護を受け、先ほどの2社を加えて秋田藩3社と呼ばれ、500石の社領を安堵されていたそうです。（*1）研修の無事を祈念して、来た道に戻りました。

続いては波宇志別神社神楽殿を訪れました。案内板によると、天正12年（1584）の墨書がある大規模の厨子があることなどから室町時代後半の建物と推察されています。太い柱や桁などの形式から、室町時代の建築の特徴が現れており、母屋の前後に庇を延ばす両流造り（*2）は東北唯一で全国でも6種しかない貴重な建築物だそうです。内部の厨子には製材年代が1200年前の鎌倉時代のものが利用されており、創建当初の建物の再利用とも言われているそうです。平成2年から4年にかけて解体修理が行われ建立当時の姿に復元を行い、軒から上方と側面の妻飾りの破風や懸魚（*3）は江戸時代初めの寛永14年（1637）修理時の形式となっています。昭和55年に国の重要文化財に指定されています。（*4）ほろわり資料館を見学し、霜月神楽についてのお話を聞いた後、いよいよ神楽会場へ向かいました。

霜月神楽は、波宇志別神社里宮である大友家宅に神楽座を設けて行われます。神に今年の収穫を感謝し、来る年へ五穀豊穡を祈る重要な神事で、神楽の体系としては湯立て神楽に属し、信濃や三河地方で行われている霜月祭、花祭り等と呼応しています。また神楽形態は、近郷の神官が祭主の神殿に集まり神楽を行う寄合神楽となっています。毎年11月7日の夕刻から朝にかけて古式に則した

33の神事、神楽が夜を徹して行われます。午後7時より厳かに儀式が行われ、午後10時頃の神子舞いである「保呂羽山舞」では神子が舞の途中で託宣(神の言葉)を告げる場面があり、巫女の原型ともいえる女官の姿を伝えています。午後11時頃「中入り」に入ります。ここで2時間の休憩に入り参拝者にお神酒やお新香がふるまわれ和やかにその時間が流れます。私は隣に座った見ず知らずの女性の方と趣味の話や身の上話などで盛り上がりいつの間にか2時間が経っていました。8日午前一時から神楽のクライマックスといえる「山の神舞」「神入舞」が行われます。丑三つ時も過ぎて朦朧とした意識の中で鑑賞すること数時間、午前6時過ぎ、最後の演目が終わると朝食となり参拝者にも朝食がふるまわれます。お精進が明け、お刺身や山菜など、とてもおいしい朝食をいただきました。

その後仮眠をとり無事に館へ帰ってきました。私は神楽を夜通し鑑賞するというのは初めての体験でした。何かのショーのように派手さや華やかさでただお客さんを楽しませるというものではないので、実際、長時間座って鑑賞するということが容易ではなかったのですが、この神社に古くから伝えられている儀式を省略したり誇張したりすることなく、そのままただ淡々と行っているということに何か重要なものを感じました。

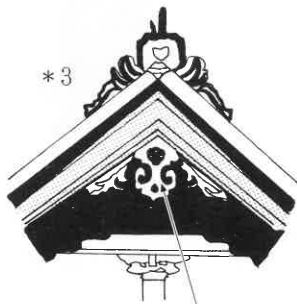
*1・*4 保呂羽山、波宇志別神社フィールドワーク
(www.kensoudan.com/firu-minami-y/forowa.html/)より



「流造り」



「両流造り」



「懸魚」

『できごと Oni Museum』

～新聞の見出しより～

民間美術の魅力じっくりと「大津絵に見る今昔」

人々の心探る (10/28 岩手日日)

～ちょっと遠くへ～ 10カ国以上の面、像も展示

全国各地の祭り紹介 (10/26 秋田さきがけ)

最終回はキリシタン

北上・岩崎 今年度の歴史講座 (12/23 岩手日日)

鬼の館で特別展 職人、グループの作品紹介

卓越した技光る 南部こけし、創作人形、わら細工

(12/28 岩手日日)

ねじりねじりお正月

親子でしめ飾り作り (12/30 岩手日報)

好きな絵柄を丁寧に 切りえ教室

親子24人が参加 (1/8 岩手日日)

伝承の技生きて 北上にある創作再確認

地域独自の創意を理解 (1/20 週間きたかみ)

鬼剣舞踊ってみよう わんぱく講座

子供たち習得に励む (1/24 岩手日日)

「今年も怖がらせるぞ」男鹿市野石なまはげの会

恒例の北上市訪問 (1/31 秋田さきがけ)

月めくり人つづり【節分】カ丸光雄さん

心の鬼を退治しよう (2/1 岩手日報)

今日から2月 雪不足で冬の行事心配

北上・西和賀 (2/1 岩手日日)

秋田・男鹿地方のナマハゲ 民家・飲食店巡り歩く

北上で福豆鬼節分会 福はうち 鬼もうち(2/4 岩手日日)

邪気払い福あやかる 福豆鬼節分会

ナマハゲも参加 威勢良く豆まき (2/5 岩手日日)

生き生きと鬼剣舞演舞 わんぱく講座

練習の成果披露 (2/7 岩手日日)

豊かな想像力に感心 ワークショップ「新春★鬼絵版画」

子供たちの作品展示 (2/14 岩手日日)

「わんぱく講座」陶芸の鬼面を展示

いい表情してるね (2/22 岩手日日)

人は何をしんじてきたか

北上で「世界の鬼面」展 (2/15 毎日新聞)

仮面が「語る」世界

(2/20～29 岩手日日)

ヨーロッパ①魔女面(スイス)

生者の世界に襲来した冥界の悪霊

アフリカ②埋葬儀礼仮面(コンゴ)

祖先や神話上の動物を造形

南北アメリカ③魔神仮面(魔神仮面)

変身・人格変容の役割

メキシコ④復活祭儀礼仮面(復活祭儀礼仮面)

芸能や宗教劇上演に導入

オセアニア⑤祖霊仮面(パプアニューギニア)

死者の仮の姿を経て変化

アジア⑥ハヌマーン(タイ)

古代インド神話が影響

アジア⑦バロン・ケケット(インドネシア)

着用したものを神とみなす

アジア⑧アマンガ・ベアヒラ(スリランカ)

三種の仮面使い分け

アジア⑨張飛面(中国)

京劇の役柄を演出

アジア⑩タルツム仮面

健康的な風刺劇に使用

鬼の里だより

● 企画展・特別展

- 〈特別展〉「江戸時代からの贈り物」～大津絵にみる今昔～
10月29日(日)～12月10日(日)
入込客数 2,927人
- 〈特別展〉「匠の伝承」～創意・創造・創作～
12月16日(土)～平成19年2月25日(日)
入込客数 3,009人
- 〈特別展〉収蔵資料展「世界の鬼面」
～国々の信仰と仮面文化～
3月4日(日)～4月15日(日) 開催中

● 鬼っこわんぱく講座

- 〈陶芸体験・張り子体験・鬼剣舞体験〉
12/24(土)・1/13(土)・1/14(日)・1/21(日)
1/28(日)・2/3(土)・2/4(日) 連続7回講座
参加者 22人

● 鬼の館芸能公演

- 10/22 後免町鬼剣舞保存会 観客 198人
3/25 二子鬼剣舞保存会 観客 109人

● 鬼ッズ・プレイミュージアム

- 10/1～3/31
・張り子面作り 63人
・出前講座(2回) 29人
・出張面作り 30人

〈冬休みワークショップ〉

- ・お正月しめ飾り作り 参加者 23人
・鬼っこ切り絵教室 参加者 43人
・新春★鬼絵版画 参加者 34人

● 鬼学講座

- 第3回 10/15(日) 受講者 32人
「民俗芸能の派生と背景」～芸能と民衆の祈り～
講師：元県立博物館長 金野静一氏
- 第4回 10/29(日) 受講者 29人
「修験芸能と反問・足踏み」
講師：盛岡大学文学部教授 門屋光昭氏
- 第5回 11/7(火)～8(水) 参加者 14人
保呂羽山霜月祭り 見学

利用案内

開館時間 午前9時から午後5時まで。
なお、入館は午後4時30分まで。

- 休館日**
- ・12月～3月の月曜日
 - ・12月～3月の国民の祝日の翌日(土・日・月の場合は火曜日)
 - ・館内整理日(11月27日～11月30日)
 - ・年末年始(12月28日～1月4日)
 - ・臨時休館日(5/22・8/28・11/20・12/1)

入館料

一般	300円(250円)
高校生	200円(150円)
小中学生	150円(100円)

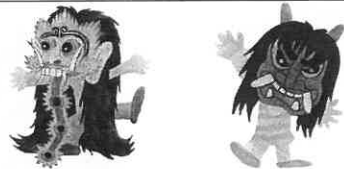
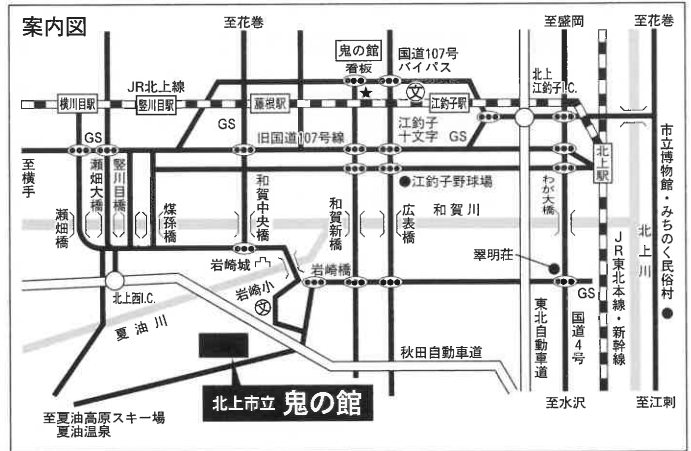
()内は20人以上の団体料金。

下記の場合、市内小中学生は入館料が免除になります。

- ・毎週土・日曜日
- ・学習活動で申請利用する時

交通案内

- ・JR北上駅西口よりバスで25分。
煤孫経由横川目行、瀬美温泉行。「岩崎橋」下車徒歩10分。
- ・JR北上駅より車で20分。
- ・東北自動車道「北上江釣子I.C.」、秋田自動車道「北上西I.C.」よりともに車で15分。



北上市立鬼の館だより

第26号 2007.3.31

編集・発行 北上市立鬼の館

〒024-0321 北上市和賀町岩崎16地割131番地
TEL 0197(73)8488 FAX 0197(73)8508